

あした天気になあれ♪

～男も女も暮らしやすく～

連載第6回

「大事なことを決めるとき」

男女共同参画について、6回の連載をしてきました。

少しは、「あ！そういうことなんだ～」と感じていただけたことがあったでしょうか。

男女共同参画社会とは、「男女が互いに人権を尊重しつつ、喜びも責任も分かち合い、個性と能力を発揮することができる社会」をいいます。

固定的な役割分担意識（男だから・・・女だから・・・）にとらわれず、市民一人ひとりがその人らしくいきいきと暮らせるように、社会の制度や慣行のあり方を見直す必要があります。

さて、最終回は東日本大震災で起きたことです。

避難所生活より・・・

◆避難所に間仕切りがないため、すぐ近くに見知らぬ人が寝ているという状況は安心して眠れません。また、授乳や着替えをする場所がなく、女性が布団の中で周りの目を気にして着替えたり、女性専用の物干し場がないため、下着が干せない。トイレに鍵がかからない、周りが暗くて怖いなど女性や子ども、高齢者、障がい者が利用しにくいという声がありました。

◆乳幼児の粉ミルクは、粉ミルクとほ乳瓶だけでなく、水やお湯を沸かす道具も必要です。紙おむつを使用する際は、お尻ふきの他、使用済み紙おむつの臭い防止対策も必要です。これらの乳幼児用品や介護用品は対象者別に必要なものをセットして配ってもらえるとよかったです。

◆避難生活は男女とも様々な不安や悩み、ストレスを多く抱えます。そうしたストレスが女性や子どもに対する暴力（暴言、身体的暴力、性的暴力など）として表れました。

◆女性の就業は、平常時においてもパート勤務などの割合が高いため、男性に比べて災害の影響で解雇される者がたくさんいました。

◆男性は、家族を経済的に支え、守るのは自分の役割と思う傾向が強く、震災後もひとりで責任を抱え込み、追い込まれてのうつ病や自殺者が増えました。

出典：男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針（平成 25 年 5 月）

これらは、平常時にもある社会の問題が災害時に表れたもので、災害時にはこうした問題がより顕著に表れるものです。平常時から男性も女性も暮らしやすい社会なら、いざという時も困ることは少なくなります。

そのためには、大切なことを決めるときに、男性だけでなく、女性の視点も入れて考えるべきです。また、女性が発言しやすくなる配慮も必要かもしれません。日頃から、「男だから・・・女だから・・・」という意識にとらわれず、誰もが意見を述べられる参画できる世の中であってほしいものです。

自治会、地域の会議、PTA、職場、学校そしてあなたの家庭。

そこは男性も女性も誰もが参画できる集まりになっているでしょうか。